学術国際貢献特別委員会設置される

日本学術会議は、去る4月15日から17日まで第114回総会（第15期3回目の総会）を開催し、新たに「学術国際貢献特別委員会」を設置しました。今回の日本学術会議の一部として、各委員の研究活動及び研究に関するアドバイザリーやアドバイザーの役割を果たすことを目的としています。

旧ソ連邦の科学者に対する緊急の支援措置について（会長談話）
平成4年2月25日

旧ソ連邦が解体したことにより、旧ソ連邦における多くの科学者は研究の継続が困難となり、研究組織も崩壊の危機に直面していると言われており、これが事実であるば、世界に与えるその影響は計り知れないものがあると思われる。いまでもなく、人類の進歩にとって科学の向上発展は不可欠のものであり、その意味で、今回の旧ソ連邦の情勢は著しく重要である。この事態、我々日本の科学者は、学協会等を通じる等の方法で、旧ソ連邦の科学者に対し、能ある支援を行う必要があると考える。

なお、旧ソ連邦の科学者と我々の科学者との間の一般的な国際学術交流協力により一層充実するための策策について、我々の科学の分野における国際賛同の一環として、日本学術会議において引き続き検討することをいたしたい。

学術国際貢献特別委員会の設置
本会議は、昨年10月に開催した第113回総会における内閣官房長官からの学術の分野における我々の国際貢献の在り方についての検討依頼に踏まえ、今回の第114回総会において学術国際貢献特別委員会を設置した。

AASSREC執行委員会の開催
去る3月23日から26日にかけて4日間、AASSREC（Association of Asian Social Science Research Councils）執行委員会が日本学術会議の会議室で開催された。外国代表団は前AASSREC会長で現副会長のR・トリニダード教授（フィリピン社会科学協会）、同じく副会長代行のJ・J・スモリッチ教授（オーストラリア社会科学アカデミー）、AASSREC事務局のD・N・ダナガレ教授（インド社会科学研究協議会）、同じく事務幹事のV・K・メータ博士（同上）のAASSREC議員4名と、タイ国バンコック駐在のUNESCO人間社会科学地域アドバイザーのY・ナタール博士の5名。

日本側は、現AASSREC会長の川田民日本学術会議副会長のほか、来年9月に川崎市のKSP（神奈川サイエンス・パーク）で日本学術会議が開催して聞く予定の「AASSREC第10回日本総会」の組織運営委員会委員長山田正雄教授（慶應義塾大学、アジア政経学会理事長）、事務局長・平野厚一郎教授（東京大学、アジア政経学会前理事長）、及び日本学術会議AASSREC専門委員会幹事浦沢賢治会員（第12期）の3名がオブザーバーの資格で参加、連日、時間の有無かのように、AASSRECの運営や来るべき第10回総会の打合せなどについて、熱心な討議が続けられた。

加盟国はオーストラリア、インド、中国、ニュージーランド、フィリピンなど、1991年8月現在、15ヵ国であるが、国（くに）委員会のほかに、委員会の制度もあり、将来この地域の各国の学協会や研究所等が準会員としてAASSRECの活動に参加する道も開かれている。出版活動としては、毎年開催される総会における諸報告やシンポジウムなどの出版のほか、定期刊行物「aassrec panorama」が年に2回出されている。

AASSRECには最高決定機関である総会のほかに、会長（2名制）、事務局の4名で構成される理事会が置かれているが、これにさらにUNESCOの地域アドバイザーが加わって開かれる執行委員会に事実上の運営権限があるようにみえる。今回は、日本学術会議で開かれた会議ではAASSRECとしては極めて重要で会議であったといえる。AASSRECはUNESCOによって承認された「非政府機関（NGO）」の地位をもち、絶えずUNESCOと緊密な関係を保っているが、同じくUNESCOによって承認されたNGOの地位をもつIFSSG（国際社会科学団体連盟）とも相互協力関係にある。

平成4年（1992年）度共同主催国際会議

第5回世界臨床薬理学会議（7月26日～31日）
第14回国際平和研究学会総会（7月27日～31日）
第8回国際平和研究学会総会（8月8日～8日）
国際地質科学連合会議及び第29回万国地理学大会（8月24日～9月3日）
第9回国際光合合成会議（8月30日～9月5日）
第11回国際光生物学会議（9月7日～12日）

詳細は日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291 にお問い合わせ下さい。